



シヤレシヤ!

クラブ活動事例集

世界でいちばん 地域を愛するプロサッカーリーグになりたい。

全国 56 の J クラブは、
地域との接点である年間 20,000 回を超える
ホームタウン活動に象徴されるように、
地域を、たくさんの人たちをハッピーにしたいと願って
活動してきました。

もっと長生きしたくなるような、
もっと子育てが楽しくなるような、
もっと大好きな人と笑い合えるような、
そんな笑顔あふれる場所を日本中に増やしたい。

だからこそ、これまで育んできたスポーツの価値と、
自分たちの持つリソースを世の中にもつかっていただき、
「共に未来を創っていこう」と決意しました。
これからは、より多くの皆さんと手を取り合って、
一緒に豊かなまちをつくっていく挑戦をしたいと思っています。

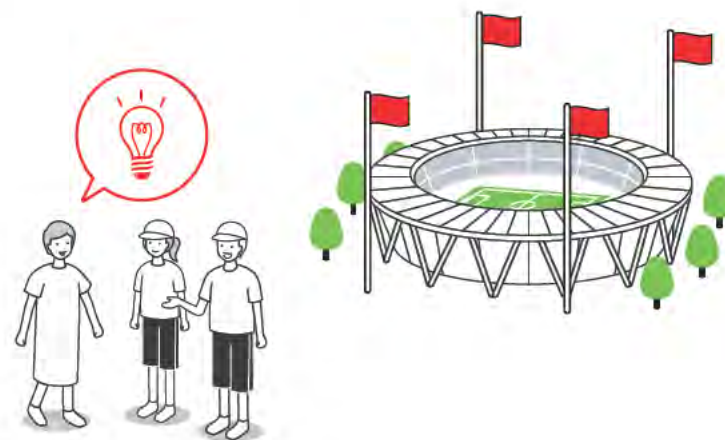
それが私たちの考える社会連携、「シャレン！」です。



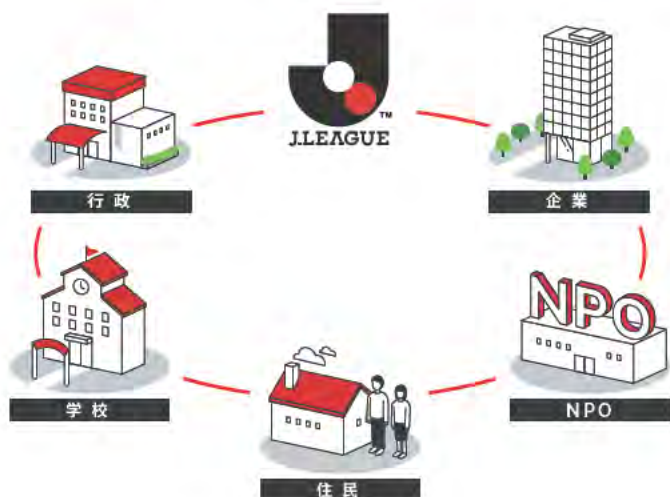
健康のこと、子育てのこと、生活のこと、
ダイバーシティ、働き方、まちづくり。
「Jリーグのチカラで地域をより良くする」
そんな想いがあれば、どんなことでもかまいません。

Jリーグ・Jクラブと一緒にやってみたい!、アイデアあるよ!
という方はぜひ「シャレン！」に参加してください。

人と人が支え合う風景をどれだけ増やしていけるか。
そんな夢に挑戦する一歩を、共に踏み出してみませんか?



シャレン！（社会連携活動）とは？



社会課題や共通のテーマ（教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など）に、地域の人・企業や団体（営利・非営利問わず）・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む活動です。

3者以上の協働者と、共通価値を創る活動を想定しており、これらの社会貢献活動等を通じて、地域社会の持続可能性の確保、関係性の構築と学びの獲得、それぞれのステークホルダーの価値の再発見に繋がるものと考えています。また、Jリーグはシャレン！を通じて、SDGsにも貢献しています。

SDGsとは？

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



北海道・東北

北海道コンサドーレ札幌
ヴァンラーレ八戸
いわてグルージャ盛岡
ベガルタ仙台
ブラウブリッツ秋田
モンテディオ山形
福島ユナイテッドFC

北関東

鹿島アントラーズ
水戸ホーリーホック
栃木SC
ザスパクサツ群馬
浦和レッズ
大宮アルディージャ

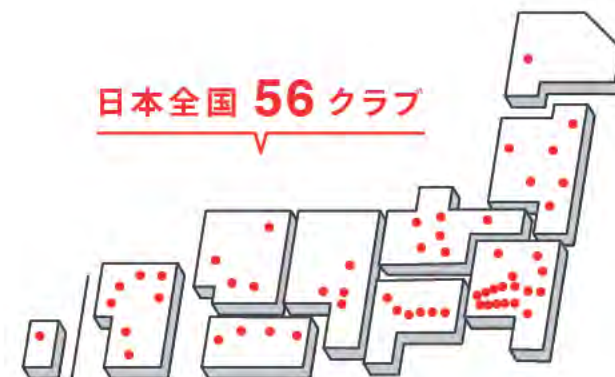
南関東

ジェフユナイテッド千葉
柏レイソル
FC東京
東京ヴェルディ
FC町田ゼルビア
川崎フロンターレ
横浜F・マリノス
横浜FC
Y.S.C.C.横浜
湘南ベルマーレ
SC相模原

甲信越

ヴァンフォーレ甲府
松本山雅FC
AC長野パルセイロ
アルビレックス新潟
カターレ富山
ツエーゲン金沢

日本全国 56 クラブ



九州・沖縄

アビスパ福岡
ギラヴァンツ北九州
サガン鳥栖
V・ファーレン長崎
ロアッソ熊本
大分トリニータ
鹿児島ユナイテッドFC
FC琉球

中国・四国

ガイナーレ鳥取
ファジアーノ岡山
サンフレッチェ広島
レノファ山口FC
カマタマーレ讃岐
徳島ヴォルティス
愛媛FC
FC今治

関西

京都サンガF.C.
ガンバ大阪
セレッソ大阪
ヴィッセル神戸

東海

清水エスパルス
ジュビロ磐田
藤枝MYFC
アスルクラロ沼津
名古屋グランパス
FC岐阜

シャレン!のアイデアを提案するには？



アイデアの応募が完了!

応募いただいたアイデアをシャレン! コアチームが閲覧・選考し、クラブとのマッチング機会をつくります。

1 ダイバーシティ(共生社会) クラブが目指す全員参加型社会の実現



Jクラブ：川崎フロンターレ
行政：川崎市
企業：第一冷蔵、アマゾンジャパン、プーマジャパン
団体：NPO法人ピープルデザイン研究所



Jクラブ：横浜FC
行政：横浜市
団体：NPO法人ピープルデザイン研究所

障がいになってしまったからといって、いろんな事を諦めなければならないのではなく、「誰一人取り残さない」そんな社会にしたい。

障がい者の正規就労移行を促進するプロジェクトの一環で、川崎フロンターレはホームの全試合で、スタジアムで就労を体験する場を提供中。

数万人のお客様を安全にお迎えし、試合を楽しんでいただくための大事な準備作業を担う仕事を通じて、働く楽しさを体験してもらうことで、社会へ踏み出す一歩をアシストしたい。

「ワクワク感が溢れる試合前のスタジアムで“働いて”、人々から“ありがとう”と笑顔で言われる経験が、参加者の自信と正規就労に繋がっていると嬉しい」とクラブスタッフは言います。

NPOや福祉作業所のサポート、川崎市の事務局が連携していますが、プロジェクトを実施していくうちに、共に活動するスタッフの方が学ぶことが

多いことにも気づかされ、最近ではこの就労体験の場が企業の人材育成・研修の場としても活用されるまでになってきています。

企業が参画することでこのプロジェクトの活動資金が得られ、参加している障がい者へ日当をお支払いできるように取り組み始めています。

それぞれの立場で出来ることを考え、強みを持ちより、プロジェクトに取り組むのがシャレン!の本質です。

横浜FC、ヴァンフォーレ甲府でも就労体験を実施中。ほかにも取り組みたいという自治体が増えてきています。この取り組みが全国の自治体にとって良いモデルになれるように挑戦は続きます。

使用したJリーグのリソース



SDGs



2 防災・震災復興

逆境に負けない豊かな地域と社会をつくろう



Jクラブ：川崎フロンターレ
行政：川崎市幸区
学校：川崎市内の小学校



Jクラブ：福島ユナイテッドFC
ホーム試合に福島ユナイテッドを迎える全クラブ
市民：福島県内の農家

自然災害が増えるなか、Jクラブでは防災・復興支援に力を入れた活動を行っています。

川崎フロンターレは東日本大震災以降、岩手県陸前高田市で活動を続けていますが、活動に関わっているクラブスタッフが自分たちの地域の防災意識が低いことに気づき、学校の先生と話し合いながら、川崎市幸区の提案型事業として「防災かるた」を製作。小学校の授業や学童保育所で稼働中です。

スタジアムが防災拠点となっていることから、スタジアムで宿泊体験を行う防災キャンプを開催したり、避難場所でもある広場で町内会の人と一緒にピクニックイベントを開催したり、防災マップを作ったり。

子どもから大人まで楽しめるエンタメ力を駆使した企画は、地域コミュニティを強くしていきます。Jリーグは東日本大震災以降、「TEAM AS ONE」を掲げ、各地で震災復興の募金活動をしてきました。

集まった募金は災害直後は義援金として、その後はクラブが行う復興支援活動の原資に充てられています。毎年3月11日付近ではJクラブで一斉募金を行っています。

福島ユナイテッドのアウェイゲームでは農産物を販売する「ふくしマルシェ」を開催中。選手たちも募金のみならず、土砂の掻き出しや避難所でのレクリエーションなど、普段は支えられているから、こういう時こそ地域に出かけます。

サポーターも、あの地域のためにと、自分が応援するクラブ以外の地域が被災しても、募金やボランティアに多数参加していきます。私たちの生活は繋がっていて、お互いさま・おかげさまののだと感じられます。やれることをやろう！と互いを支え合う風景はJリーグの誇りでもあります。

使用したJリーグのリソース



SDGs



3 持続可能な地域づくり

地域のシゴト、オトナに触れる



Jクラブ：湘南ベルマーレ
学校：市内の中学校、ゼロ高等学院
企業：横浜ゴム、金子産業



Jクラブ：ヴァンフォーレ甲府
学校：明治大学澤井ゼミ
企業：クラブスポンサー企業

地域の衰退、それをただ眺めていたくない。人口減少はすぐに変えることは出来ないけれども、地元を元気にしていくことは自分たちの手で出来るのではないか。持続可能な地域づくりの肝は、住民が描く共通のビジョンと地域人材の育成だという。

そういえば、なぜ地域から子どもたちは出ていってしまうのか？地元には「何もない」から…と言うけれど、本当にそうなのだろうか。

地元には素敵な仕事があることを知らなかったり、働いているカッコイイ大人に触れる機会がなかったりするからではないだろうか。

湘南ベルマーレでは、素敵な企業があって、思いっきり楽しんで働いている大人がいることを知ってほしいとの想いでこのプロジェクトが始動しました。その名も「まなべるま〜れ」。

クラブの周りにはたくさんの地元企業と共に、クラブのフィロソフィである「たのしめるか。」を

掛け合わせて、大人が思いっきり楽しんで働いている姿を地域の子どものたちに見せちゃう企画です！

ヴァンフォーレ甲府では、企業と地元を離れてしまった学生や、地元にいる学生向けの就活イベントをスタジアムで開催。学生たちにとっても身近なJクラブがハブになることで、プロジェクトの楽しさが増していきます。

地元企業のことを知ることは、地域を知ることにも繋がる。地域を知って愛着を増せば、きっと次世代の担い手になってくれる。

「自分たちのまちを自分たちの手でつくろう。」これがJリーグの描いてきた理想の姿でもあり、クラブの本質だと私たちは思っています。

使用したJリーグのリソース



SDGs



4 教育

地域の未来、子どもの課題に向き合う



Jクラブ：セレッソ大阪
行政：大阪市
企業：カスタマーリレーションテレマーケティング
東洋シール、ナカバヤシ、ヘソプロダクション



Jクラブ：鹿児島ユナイテッドFC
学校：地域の大学生ボランティア
企業：鹿児島ユナイテッドFCオフィシャルカフェ「ユナはん」

子どもたちに出来ることを一緒に考えてみませんか。子どもたちの心の成長や学びは、学校活動以外にもあります。

全国平均と比べて子どもの読書率が低い大阪市において、クラブができることは何だろうと考えたセレッソ大阪は、大阪市、大阪市立図書館と連携して、「読書推進プロジェクト～本を読んで、人生を豊かに～」を継続して実施しています。

行政が呼びかけるよりも、クラブや選手が呼びかけた方が届きやすい子どもたちもいるはず。大好きな選手が言っているなら…と振り向いてくれる子どももいるかもしれない。

本を読むことで子どもたちの知識・読解力の向上はもちろん、豊かな心を育みたい。読書を通して、子どもたちの世界が広がる。本プロジェクトに賛同した企業が、この活動を支援しています。

配布された読書手帳には、読んだ本の感想を記入。読んだ本の数に応じてクラブオリジナルステッカーやノートがプレゼントされます。図書館には選手おすすめの本も展示しています。

スタジアムという開放的な空間での読書会には、子どもたちから年配の方まで幅広い層の方たちが参加しています。選手が使用するロッカールームや選手ベンチ、さらにはグラウンドレベルといった、普段入ることのできない場所で本を読むという特別な時間を、参加者の皆さんは思い思いに楽しんでいました。

鹿児島ユナイテッドでは「スタジアムde宿題」を実施中。さまざまなニーズに合わせて子どもたちをクラブと地域で育んでいきたいものです。

使用したJリーグのリソース



SDGs



5 健康/SIB

「健康に長生き」を目指す地方クラブの挑戦



Jクラブ：徳島ヴォルティス
行政：徳島県美馬市
企業：大塚製薬、R-body project、aiwell、阿波銀行、明治安田生命



Jクラブ：レノファ山口FC
行政：県内の市町
団体：社会福祉法人ひとつの会

「健康に暮らしたい」とは、誰もが思うこと。いきなり運動をするのはハードルがある、一人だと運動を始めると長続きしにくい。そんな不安を解消させるプロジェクトが「美と健康のまち」徳島県美馬市でスタートしました。

スポーツを教えるプロである徳島ヴォルティスのコーチたちが、コンディショニングノウハウを用いて地域住民向けにプログラムを提供中。市民が健康になり、医療費削減に繋がれば、市はもちろん、市民にとってより良いまちになっていくはずと、新しいチャレンジを決めたそうです。

運動できる体づくりとコミュニティづくりからスタートできるように、プログラムは専門家と一緒につくられています。参加者は「姿勢が良くなった!」「風邪を引きやすかったが体質が改善された!」と効果を実感中。

このプロジェクトのもうひとつのユニークな側面は、ファイナンスにあります。

参加者のコンディションや運動習慣など、あらかじめ定めた目標が達成されたことを確認し、そのあと成果運動分を支払う「ソーシャルインパクトボンド」を活用中で、経済産業省をはじめ、全国から注目されています。

レノファ山口でも、健康寿命延伸に向けた新しい取り組みを推進しています。社会福祉法人の機能訓練指導員と連携して、「レノファ健康・元気体操」を開発し、企業と連携しながら街へ広げ、ハレの舞台でもあるスタジアムでも実施中。この法人では、この取り組みを始めてから選手の士気が上がり、就戦希望者も増えるなど、副次的な効果があったとか。関わる人にとっての学びや成長、効力感にはシャレン!の大切な狙いでもあります。

使用したJリーグのリソース



SDGs



6 地域のコミュニティ 多世代の繋がり・ダイバーシティ



Jクラブ：ガイナレ鳥取
学 校：地域の保育園・幼稚園・小学校
企 業：丸京製菓、米子ガス、やわらぎ法律事務所



Jクラブ：アビスパ福岡
行 政：県内の市町村
団 体：福岡県市町村振興協会

核家族化、少子化、デジタル化が進む中で、世代間の交流やリアルなコミュニケーションが減少しています。利便性や快適さが求められる一方で、人との繋がり・リアルコミュニティの価値も見直されてきています。

多世代や障がい者も同じピッチに入れるウォーキングサッカーや、ゆるいスポーツが全国に拡がりを見せ始めています。ガイナレ鳥取ではガキ大将を復活させようと昔ながらの遊びを「復活！公園遊び」として展開しています。

アビスパ福岡では、多世代交流の場を福岡県市町村振興協会や自治体と協働で子ども・大人・シニアの3世代を対象とした「健康づくり地域交流フェスタ」を実施しています。シニアが子どもたちをリードしたり、逆に子どもたちがシニアをサポートしたり。

最初は「え、一緒にやるの?」とごちなかつた子どもたち、おじいちゃんおばあちゃんたちも、帰る頃には会話も増え、みんな笑顔に。運動をきっかけに世代を超えた地域の繋がりが生まれています。お互いが支え合う風景が増えてほしい。これはJリーグの強い想いです。

老若男女が共にスポーツを楽しんでいる幸せな風景をつくらうとJリーグはスタートしました。人との繋がり、社会関係資本が多いと心身ともに健康でいられると聞きます。

人との繋がり、治安維持、人々が幸せに暮らす日常の風景を日本中にどうつくっていくか。これらを多くの人に届けるには発信力と担い手が必要です。クラブと一緒に百年構想のある風景をつくっていきませんか?

使用したJリーグのリソース



SDGs



7 交流人口・関係人口の増加 クラブと仕掛ける新しい地域発信



Jクラブ：松本山雅FC
行 政：松本市
企 業：アルプス市場（直販所）
団 体：ドリームワークス・コムハウス（障がい福祉サービス事務所）



Jクラブ：ブラウブリッツ秋田
学 校：中央大学FLP小林ゼミ
企 業：県内支援企業

松本山雅では「耕作放棄地をどう活用できるか」「松本の良さを、県外の人にどう発信するか」といった、地域のお困りごとを解決することに目を向けています。

まずは農業委員会、直販所と一緒に大豆栽培をスタート。障がい者やクラブのアカデミー選手と一緒に、大豆を栽培。収穫した大豆はクラブ発祥の地「喫茶山雅」で加工品として販売されます。関わるすべての人がWINとなるように設計を工夫しているのだそう。アカデミーの選手の人間力形成にも寄与しています。

また、2019シーズンはサッカーのホーム&アウェイの構造を活用して、アウェイサポーター向けのツアーを企業と協働で企画し始めました。松本市の農業体験とバーベキューなどをセットにした企画や、ワイナリーを巡るツアーなど、楽しさを増やしています。ピッチで戦う相手も、地域

にとってはお客さま。地元商店街と組んでアウェイサポーターをもてなす企画はさまざまなチームで拡がっています。

鹿島アントラーズでは、DMO（観光地域づくり法人）を自治体と共同で設立し、スポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大、地域経済の活性化を推進中。サッカースリランカ代表が合宿に訪れるなど、地域への誘客も行っています。

北海道コンサドーレ札幌は、海外で北海道の農作物のPRしたり、ブラウブリッツ秋田では中央大学の学生たちが、地域に健康を拡げようと、毎年「福+(ふくたす)プロジェクト」を実施したりしています。東京の学生が地方の現状に触れ、自分なりの関わり方や貢献の方法を考えるフィールドワークから、地元の人たちとの交流が生まれています。

使用したJリーグのリソース



SDGs



8 環境

クラブと共に取り組む環境活動



Jクラブ：ヴァンフォーレ甲府
団 体：スペースふう
企 業：県内支援企業



Jクラブ：大宮アルディージャ
市 民：ファン・サポーター

サッカーの試合運営は、環境というテーマでも密接に関わっています。

スタジアム内で消費される飲食容器や会場周辺のゴミの問題はもちろん、グローバルレベルでは、スタジアムそのものの運用を自然エネルギーで賄おうとする取り組みや、環境負荷の低いスタジアムをつくろうといった動きもあります。スタジアムへの移動により排出される二酸化炭素をオフセットする取り組みも、国際大会では当たり前のように目にします。

ヴァンフォーレ甲府は、環境問題に対して地元のNPO法人や企業と協働。2004年からスタジアムで利用する食器を全て再利用しています。(リユース食器、リユースカップなど)

容器を伴う飲食物を購入する際、代金にデポジットを上乗せして支払い、食器を返却するとデポジット

が払い戻しされる仕組みです。15年間、すべてのホームゲームで継続して取り組んでいます。

清水エスパルスでは海洋プラスチック問題を考えるきっかけになるイベントをJAMSTEC(海洋研究開発機構)と協働で開催。マイクロプラスチックが人体や魚に及ぼす影響を体感できるような工夫をしています。

ガンバ大阪でもプラスチックに代わるカップをスタジアムで販売したり、湘南ベルマーレでは電気地産地消に取り組んだり、大宮アルディージャではサポーターと共に清掃活動をしたり。

環境への取り組みをクラブはどうすべきか。気候変動に対するさまざまな考え方がある中で、少しでも環境に負荷をかけないように何ができるか。地域の皆さんと共に考え、持続可能な未来をつくっていきたくと思っています。

使用したJリーグのリソース



SDGs



9 スポーツ観戦を生きるチカラに

どこでも観戦体験! 応援がもたらすチカラ



Jクラブ：アルビレックス新潟
市 民：サポーター有志
企 業：DAZN
医療機関：県内病院



Jクラブ：FC東京
行 政：オリイ研究所
医療機関：榊原記念病院

スポーツの良さのひとつは“応援”。誰かを“応援”することで、自分も元気になる。“応援”した選手に勇気をもらったり、学びを得たり。スタジアムが面白いのは、そこに集った人たちと繋がりを感じられるから。

でも、施設や病院にいるからスタジアムまで行けない人も、自宅で療養していなければならない人もいます。入院していたらちょっと弱気になってしまったり、家族と一緒にいられなかったり、孤独を感じてしまったりすることもあります。だったら、みんなここで一緒に観戦したらどうだろう?と、新潟のある病院の先生が始めたのが、この「病院ビューイング」という企画です。お気に入りの選手からビデオメッセージがもらえたり、サポーターが応援の練習をしてくれたり、ボランティアさんも病院と一緒に観戦したりと、一体感を味わうための仕掛けもたくさん。

患者さんだけでなく、ご家族や病院で働くスタッフにも変化が生まれたのだとか。次の試合が待ち遠しくなったり、いつかはスタジアムへという気持ちにもなったり。現在、安全に実施するためのマニュアルも着々と整備中。この取り組みは新潟からお隣の富山にまで伝播し、これからは全国に広がるのではないかと期待しています。

ほかにも、難病の子が「OliHime(オリヒメ)」という分身ロボットで、家族と一緒にスタジアム観戦をしたり、特別支援学校でパブリックビューイングをしたり、アバターでのスタジアムツアーをしたりするなど、技術をつかったさまざまな取り組みが増えてきました。たくさんの人たちの想いで、日本中にたくさんの笑顔が増えていきますように。

使用したJリーグのリソース



SDGs



Jリーグをつかおう。社会のために。



シャレン!

Jリーグ社会連携

お問い合わせ

Jリーグ社会連携部

✉ shakairenkeibu@j-league.or.jp

シャレン!WEBサイト
<https://www.jleague.jp/sharen/>



シャレン!
フェイスブック

